

## 平成22年度 第1回千葉市立博物館協議会議事録

- 1 日時：平成22年7月22日（木） 午後1時30分～午後2時45分
- 2 場所：千葉市中央コミュニティセンター 8階 87会議室
- 3 出席者：（委員） 委員長他7名出席（10名中8名）

委員長	岡本東三
副委員長	西川明
委員	青木繁夫、色部和子、鷹野敏明
	武田昭子、西本豊弘、福田豊彦

（事務局）

生涯学習部長	宇留間正
生涯学習振興課	廣森滋
加曽利貝塚博物館	青沼道文、村田六郎太、飛田正美、井内孝則
郷土博物館	倉田義広、殿塚昭彦、若菜三郎

### 4 議事

#### （1）平成22年度博物館事業について

##### I 加曽利貝塚博物館

##### II 郷土博物館

#### （2）郷土博物館の整備について

### 5 報告

- （1）加曽利貝塚出土骨類の再整理について
- （2）県立千葉高等学校収蔵考古資料の調査について
- （3）加曽利貝塚博物館の周知活動について

### 6 議事・報告の概要

#### （1）議事

##### ア 平成22年度博物館事業について

両博物館における「平成22年度博物館事業について」を事業ごとに説明し、委員より意見を受ける。

##### イ 郷土博物館の整備について

郷土博物館から「郷土博物館の整備について」を説明して、委員より意見を受ける。

#### （2）報告

- ア 加曽利貝塚出土骨類の再整理について
- イ 県立千葉高等学校収蔵考古資料の調査について
- ウ 加曽利貝塚博物館の周知活動について

加曽利貝塚博物館から、「加曽利貝塚出土骨類の再整理について」「県立千葉高等学校収蔵考古資料の調査について」「加曽利貝塚博物館の周知活動について」を報告する。

### 7 会議経過

午後1時30分、委員10名中8名着席、池田委員・小松委員は欠席。

村田加曽利貝塚博物館副館長から、千葉市立博物館協議会運営規則第3条の規定により、この会議が成立していることが告げられ開会した。

宇留間生涯学習部長の教育委員会挨拶の後、岡本委員長が挨拶した。

新委員の色部氏に委嘱状を交付した。  
岡本委員長を議長として、議事が進行した。

## 議事（１）平成２２年度博物館事業について

### < 説 明 >

飛田・若菜係長 はじめに、加曽利貝塚博物館における維持管理事業・資料収集保管事業・調査研究事業・展示事業・教育普及事業・博物館整備事業・博物館協議会について飛田係長より説明し、引き続き、郷土博物館における維持管理事業・資料収集保管事業・調査研究事業・展示事業・教育普及事業・市史編纂事業について若菜係長より説明する。

### < 質疑応答 >

岡本委員長 事務局より説明がありましたが、ご質問、ご意見はありませんか。

青木委員 加曽利貝塚資料の整理保管の項目で、加曽利貝塚の発掘資料は標準資料です。発掘調査の記録類と思われますが、経年劣化はどの程度進行しているのでしょうか。

岡本委員長 デジタル化するということですか。

村田副館長 一番困っているのは、調査時のカラー写真の劣化です。殆どブルーが飛んでしまっていて赤茶けた写真になっているので、早急にデジタル化を行って、その後色の復元の作業をどのように進めるかが課題です。

次に、危惧されるのは実測図面類で、酸性紙を使用しているため数十年の先には自然崩壊の危機にあります。この図面類をいかにデジタル化するかが課題で、経費等の問題もあり、現在のスキャナーで取り込むには精度の問題で若干の難があります。今後、技術的な工夫を重ね、職員の手によりでデジタル化していきたいと考えています。

岡本委員長 予算がないということもわかりますが大事な事業ですので、出土した遺物も大切ですが、遺物の属性が全くわからなくなってしまうので、記録類のデジタル化については、最善の努力をお願いしたいと思います。

西川委員 国体は数十年に一度の事業で、前回昭和４８年の国体では昭和天皇・皇后両陛下、皇太子・皇太子妃両殿下（現天皇・皇后両陛下）が加曽利貝塚を視察されています。今年９月に千葉国体が開催されますが、両博物館の視察のご予定はありますか。特に「加曽利貝塚を世界遺産に」という話もあるので、このような機会に全国PRがあればいいのではないかと思います。

青沼館長 エントリーをいたしました。今のところ視察のご予定はなさそうです。

ただ、昨年来、博物館友の会はじめ諸団体より加曽利貝塚の名前を広く知らしめる工夫をなささいとの話もあり、また、昨年の議会で加曽利貝塚の世界遺産登録に向けての採択がされたこともあったので、議会でもかなり感心を持たれており

ます。報告ということで説明申しますが、今後、区役所等各所で加曽利貝塚をPRする展示をしていきます。

倉田館長　こられるご予定は聞いておりません。

「千葉おもてなし推進協議会」において市としての取り組みを検討中です。その中で役割があれば対応したいと考えています。具体的なことについては聞いていません。

岡本委員長　これに関連して加曽利貝塚博物館の展示事業ですが、展示事業は博物館の重要な柱であります。当初予算が0となっております。自前でやるということですか。

当初予算0というのは具合が悪いのではないのでしょうか。博物館の機能には教育普及的な機能など、それぞれの役割があります。博物館の展示事業として、今お話の加曽利貝塚を知らしめることであれば、当初予算がないのは問題ではないのでしょうか。予算が厳しいことはわかりますが、このことについてどのようにお考えですか。

飛田係長　昨年度から予算化しておりません。これについては、必要に応じ予算を他の事業から移し、消耗品費等を支出しております。予算作成の段階で各所からの指示に従うわけですが、館の努力不足の部分もあると考えます。次年度以降、適正な予算配分に努力します。

岡本委員長　事務局の努力はわかりますが、市の教育委員会として加曽利貝塚を世界遺産にしようかという機運がある時、博物館事業の根本である展示事業について、内部努力を十分にされているとは思いますが、博物館予算のなかで執行するというだけでなく、予算をとってくるくらいの意欲がないと、世界遺産になどなりっこない。

宇留間部長　博物館は収蔵資料の活用という形での事業を展開し、縮減予算の中でも市民の方々にみていただく努力をしています。

次に世界遺産のことですが、市民より世界遺産登録への申請要望が議会にあり昨年9月議会で採択されました。

千葉県・国、実際に行っている青森の事務局に確認しますとやはり、登録申請は非常に難しいとのこと。それは、北海道・青森県・秋田県では計画が進んでおり、千葉市の加曽利貝塚が何故、東北・北海道地域の縄文遺跡に加わる意義付けができないということ。今回の登録申請は北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群についての世界遺産登録で、加曽利貝塚がこれに合体するのは難しいと議会には先般、ご報告させていただきました。

世界遺産への機運が高まっていますが、市民の方々の中で加曽利貝塚を知らない方もかなりおられることから、博物館内だけでなく、外に出てPRするというので、青沼館長に今年から区役所など各所で展示するという工夫をしていただくようお願いしています。

また、今までの加曽利貝塚博物館の調査資料を精査し、もう少しまとめていただいて、重要であることを外に発信していくことを、青沼館長を中心にプロジェ

クトとはいいがたいのですが、会をつくって進めていただいております。

予算につきましても努力して、よりアピールできるような予算編成をしたいと考えております。

岡本委員長 予算について内部努力を一生懸命にされているようですが、なお一層の努力をお願いします。

福田委員 岡本委員長のおっしゃるとおりだと思います。

加曽利貝塚の遺跡自体のことはよく存じあげないのですが、加曽利という地名にも重要な問題があるのではないかと。最近伺ったところでは、古代日本語の研究者である学習院大学国文学の大野晋さんは、地名の由来、解明の方法を根拠に、ある時代を精築して、一つのモデルと認識を行うことを提言しています。加曽利貝塚の時代に適応できるかは別として、国語学と通ずるような重なりがあれば是非研究していただきたい。加曽利の地名自体はかなりはやくから存在していたはずですが。

西本委員 予算がないということは、各地の博物館で聞いています。復活折衝とか、自助努力でやっていると聞いていますが、そういう時代かなと思いつつも、一つ世界遺産登録の話もありますが、青森県は非常に元気です。青森県は世界遺産という目標を掲げているから強い。観光事業と連携して新幹線を誘致するなど、県が一体となり観光立県として考えている。

加曽利は貝塚だけでなく、遺跡全体を再評価すべき時期にきている。過去の資料を再整理すると同時に、新しい現代的視点で加曽利貝塚をもう一度評価しなおすという意味で、古い資料を整理するのではなく、現代の貝塚研究から見てどうかという切り口で再整理を進めてはどうか。土器を見るにしても土器型式を分類をするだけでなく、ちょっと視点を変えれば従来と違った評価が生まれるのではないのでしょうか。

特に加曽利貝塚は現状のままにしておくのはもったいない。開発が進められてきた昨今、こんなに旧状を残している場所は本当に少なくなっている。加曽利貝塚はますます貴重な遺跡となっていて、我々も何とか応援したいと思っている。

岡本委員長 加曽利貝塚は何て言っても一番大きな貝塚、教科書にも出るような遺跡、それを活用するような方策を市の方としても考える必要があり、他にはない遺跡の特徴を持っている。

青木委員 静岡県の登呂遺跡が教科書からおちてしまったときに、静岡県は相当にショックだったらしく、全部見直しをかけて再整備しています。そういう計画というのは今、岡本先生がおっしゃったように将来的には考えていかななくてはならないかもしれません。

岡本委員長 西本先生がおっしゃられたように、新しい活用の方策を考えて財産を持っているわけですから、それを磨いていく。そのためには予算も必要になるわけですが、

プランニングする分には別にお金がかかるわけではない。老朽化してきている加曾利貝塚博物館を将来に備えて、どのようにするのか。貝塚研究の日本全体のセンターになりうるわけですから、いくらでも、活用の方法があると思います。アイデアを出すのは予算が伴わないと思いますので、今のうちから準備をされて活用していく方向に向かっていただければと思います。

先生方皆さんも同じ気持ちだと思います。

色部委員 予算、価値について大事なお話になっておりますが、ちょっとはずれる内容になると思いますがよろしいでしょうか。その前に私、新任ということで先ほどご紹介いただきましたが、きちんとご挨拶せず申し訳ございませんでした。千葉市校長会からということで、児童、生徒、学校の視点から勉強させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

両博物館の教育普及事業のところに「総合的な学習の時間への対応」の項目がありますが、このことについて、ここ数年の利活用はどのようになっているのか、今ちょうどいい具合なのか、もっと活用してほしいのか、さらに呼びかけて一杯になっても困るのか、といった状況を、それによつては私どもでも会議の時に、もっと普及した方がよければ、一言声をかけるとか、積極的な声かけなどもできます。その辺のところを教えていただければお手伝いできるかなと思いました。

飛田係長 加曾利貝塚から報告します。

「総合的な学習の時間」の対応ですが、これにつきましては学校が見学にこられるものに対する対応ということで、特に4月から6月にかけての対応をさせていただいておりますが、これ以外の総合的な学習の時間については近隣の学校であります。桜木小学校の5年生を対象に6年の事前学習という形で、10月から12月の間、学校の時間に合わせて、5年生の5クラスを対象に縄文体験をしていただいております。博物館にきて縄文食の試食をしたり、石器を使用したり、いろいろな体験をしていただいております。そこで、学習していただいたものを年があけてから、約5人で1班の編成で壁新聞を作成していただいております。その時に博物館での体験だけでは内容が足りないものですから、それぞれ児童たちが博物館、図書館にいった調べたものを壁新聞に盛り込んで、2月に発表会をしています。博物館からも呼ばれて行きます。壁新聞を学校に掲示して、次年度の4月から5月中の2ヶ月当博物館でミニ企画展として展示しています。ちょうどその時期は小学生見学が数多くあり、他校の多くの児童の目に触れることとなります。

学校からの依頼については、校長会を通してお受けするように心掛けております。現時点で当博物館と致しましては、桜木小学校の「総合的な学習の時間」をお受けさせていただいております。

色部委員 現状のような形で大丈夫ですか。

飛田係長 はい。

若菜係長 郷土博物館です。見学の場合には説明等で対応しておりますが、「総合的な学

習の時間」の対応について、今年度は残念ながら、ございません。2、3年前に比べると、総合的な学習の一環での見学申込は減ってきています。総合的な学習の中でのテーマを決めていただければ、たとえば、千葉の歴史についてやりたいと、希望を出していただき、事前に相談をしていただきたいと思います。のちほど、展示改修の説明を行います。近現代の展示が完成したので多少テーマの枠が広がると思います。

郷土博物館では、中学2年生が実際に職場を訪問して仕事をする職場体験の方が、ある程度範囲が決まっているので希望を出しやすいと思います。総合的な学習は先生方もなかなかテーマが絞りにくいものと思います。郷土博物館としては、「千葉の歴史について知りたい」でも結構ですので、まず、相談していただければよいと思います。

岡本委員長 色部委員から声かけをしていただいて、活用できるようなことでお願いをしたい。

色部委員 総合的な学習の時間だと課題を設定しなければなりません。歴史という視点からは多分3年生が千葉市の勉強をしますが、その場合には深くはできない。6年生で歴史をやりますけれども切り口が違う。もしかしたら、担任が勉強してこんなことを子どもたちともっと深めたいという思いにいたらないとなかなかテーマ別にはいかないのかも知れません。機会があったらこういうところも相談できることを周知したいと思います。

岡本委員長 ありがとうございます。  
それでは、次の議題にうつらせていただきます。

## 議事（2）郷土博物館の整備について

### < 説 明 >

若菜係長 郷土博物館における「郷土博物館の整備について」若菜係長より説明する。

### < 質疑応答 >

岡本委員長 郷土博物館の整備は26年度、次年度から4年間くらいかかるということですね。

倉田館長 財政状況の問題がありますが、計画としてはこのような案で進めたいと考えます。

岡本委員長 4階については、今、説明していただいたとおりですね。

倉田館長 そうです。

岡本委員長 3年4年の間はこのような原案で進めていくということですか。

倉田館長 そうです。展示についてはこのとおりです。また、空調について十分な整備が

されていないので、全館空調を含めた形での展示環境の整備を進めていきたいと考えています。

岡本委員長 整備にはまだ時間があります。アウトラインとして考えていいですか。

倉田館長 結構です。

岡本委員長 具体的になったら、もう一回提示していただけますか。

倉田館長 提示します。

岡本委員長 今後、事業を進めていく中で先生方にご相談するようなこともおきてくると思います。先生方によりしくお願いします。

### 報告（１）加曽利貝塚出土骨類の再整理について

#### < 説 明 >

村田副館長 加曽利貝塚博物館から「加曽利貝塚出土骨類の再整理について」村田副館長より説明する。

### 報告（２）県立千葉高等学校収蔵考古学資料調査について

### 報告（３）加曽利貝塚博物館の周知活動について

#### < 説 明 >

飛田係長 加曽利貝塚博物館から「県立千葉高等学校収蔵考古学資料調査について」「加曽利貝塚博物館の周知活動について」飛田係長より説明する。

#### < 質疑応答 >

青木委員 要望ですが、加曽利貝塚は膨大な研究資料を持っています。報告書類、紀要についても大変いい論文がたくさんでています。できれば、それらをPDFにさせていただいてホームページに載せることを将来的に考えていただけないでしょうか。私たちも今まで以上に利用できます。そう簡単にはできないと思いますが、将来計画として是非、この周知活動のどこかに位置づけをお願いできないでしょうか。

たとえば、土器の製作技法は、加曽利貝塚博物館が発祥の地ですので、これは是非お願いしたい。

青沼館長 村田から報告がありましたけれども、貝、人骨その他の骨類、自然遺物の整備が進んでまいりました。加曽利貝塚は貝層部分についてはまだ、3%しか調査されていません。ほんの微々たる調査にもかかわらず、資料の貴重性、重要性は、現在、調査、整理されているどの遺跡よりも豊富な情報量を持っており、先学の努力により、かなり成果が積み重ねられているところです。ただ肝心な最も考古学的な土器の分類とかみ合わない部分があります。そのところを集中的に整理し

て、組み立て直す。さきほど西本先生からも新しい視点でということもございました。これに沿うようなまとめ方をしていきたいと思います。博物館開館以来44年、加曽利南貝塚大発掘からも46年の時の経過があります。その中で一つの区切りとなる50年の年を目指して、何かを組み立てる試みをしていきたいと考えます。

岡本委員長　私たち学生時代、機運があって保存された時点から、もう40年以上がたってその意義が、だんだん忘れ去られてきている中で、せっかく議会で決議が採択された事ですから、この機会に是非とも、もう一度重要性を訴えていくことは、必要なことだと思いますし、それだけ価値のある遺跡だと思います。是非、進めていただきたいと考える次第です。

<議長から他の意見を求めたが、他に意見がなく質疑は終了。>

青沼館長　本日はお暑い中、長時間にわたりご協議本当にありがとうございました。貴重な意見をたくさん賜りました。私どもこれから、それらを生かしまして、博物館の運営がさらによくなるよう努める所存です。本日はありがとうございました。

<村田副館長の閉会のことばで会議終了>

議事録承認者

\_\_\_\_\_

⑨